

竹取新聞

園同士の繋がり

福岡県にある保育園の園長、副園長と共に、東京の誠美保育園様へお伺いしました。見学に至ったきっかけは、ギビングツリー主催の保育環境セミナーに参加された園長先生が、誠美保育園様の見学園紹介を見て、「うちの保育園と園舎の構造が似ている!あの園を見てみたい」と感じられたことからでした。

今回の見学で、私たちが目を惹かれたのは、装飾物でした。装飾物について園長の折井先生にお聞きすると「園内の装飾は、大人が作ったものではなく、子どもたちが普段作ったものが多いです。そうすると『子ども自身が園に位置づく』ようになります。だから大切なのです。」と仰り、子どもたちの作品があちらこちらに飾ってありました。

「あの装飾物の写真撮ってもらっていいですか?あれも



砂のケーキを玄関に飾り
まるでショーウィンドウに
ケーキが並んでいるようです!



お楽しみ会で演じる脚本は
子どもたち自身で決めます。
演目、出演者を大きなポス
ターで告知する演出!

実践が始まるのはこれから。先生方の晴れやかな表情から、遠く離れた園同士が繋がる有難さを感じました。

株式会社 カグヤ

東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第90版

理念と実践で
絆を結びます

参画

ギビングツリー(以下、GT)主催の「リーダー研修」が開催されました。全国から主任先生や現場のリーダーが集まり、自園の課題というテーマでグループ討議を行いました。その後は各グループで上がった課題を発表し、他のグループがそれに対して答え、そしてGT代表の藤森先生からもお話を頂くという流れでした。通常の講演をお聞きするタイプのセミナーと違い、自分達で話し合い、課題を出し合い、そして解決策も自分達で考えるという事を繰り返し「参画」するセミナーであることを実感しました。

参加者の方々からは、「自分が今まさに悩んでいることが、各グループの課題を聞くと次々出てきていて、どのグループの課題も自分事のように聞こえます。」「話し終えた後に



全国の園のリーダーが集まり、熱い保育議論を
繰り広げ、学びを深めていらっしゃいました。

お互いの課題を言い合える場や共感し合える場。そして、その課題に対して考え方を学べる場。誰もが自分の出来ることで「参画」し合えるのも、一緒に同じ道を歩んでいるからこそ。一緒に歩める方々がこんなにもたくさんいるということをお忘れずにありたいと思います。

買い物リスト

先日、新宿こだま保育園の先生から、園で行っている「クッキング」について、素敵なお話を聴きました。

「クッキングの時間は子どもたちが調理するだけでなく、みんなで使う食材を『買い物リスト』に書き出し、スーパーに行き調達しています。事前に『買い物リスト』を作ったちは「これは?」「これは?」というように、食べ物名前やそのものに興味を持つことができるのです。」

園でも、家でも大人の目的に子どもたちが付いていくのではなく、子どもたちが自身から取り組める環境を用意すること。これは、子どもたちの場づくりだけでなく、大人にとっても大事なことで感じました。

さらに、園での取り組みを保護者の方々に伝えながら、一緒に見守る工夫として、こんな実践をお聴きました。



子どもたちにとっては
近所のスーパーも大冒険です!

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

本質を守る

今年度ははじめに、社内が発足した「祭り部」。先月は、ちょうどユネスコ無形文化遺産に登録されたばかりの「秩父夜祭」に、皆で参加しました。しかも、大変ありがたいことに、不思議な縁のおかげさまで、外側から見物するのではなく、内側から「御神幸行列」などの神事に参加させて頂くことに。そんな貴重な体験を通してお祭りに対する意識、認識がガラッと変わりました。これまで「お祭り」といえば、楽しく賑やかなイベント「感覚が強かったのですが、本来のお祭りとは「神事」であり、人が神様に合わせるのには当然だったということ。今は昔に比べ、地域性が失われていったり、本質が見えにくい時代だったりして、どうしても人間都合の「経済効果」や「観光要素」などの折り合いを考えると必要もあるのでしょうか。そもそも何のためにやっているのかに立ち戻って、「何を守り、何を変えていくのか」を見直し続けていくことが大事だと感じます。お祭りに限らずですが、先人が残し繋いできたものの本質をしっかりと守り、子どもたちにも繋いでいけたらと思います。



「秩父夜祭」には、脈々と受け継がれた伝統、そこにある宮司や氏子、関係者の想いが、色濃く残っていました。



毎年、変わらず12月3日に行われる「秩父夜祭(大祭)」。かつて、経済効果を念頭に置いて、週末開催を求める声も出た中で、秩父神社側が「神事と切り離せないものであり、別の日に譲ることはできない」と反対し、今も守られています。

バースデー

今回の全体会議での誕生会も、とびきりのスイーツを…と準備を進めていたのですが、主役となるクルーは数日前から体調不調を訴え、会議前日も会社を休むほど。そこで急遽、バースデースイーツを延期することに…。毎月、奇抜なスイーツを楽しむにしてくださいっているパートナーの方々もとても残念そう。でも「お祝いしなきゃー」ということで、生姜葛湯で乾杯です。ささやかですが、みんなで味わえば楽しさ10倍、面白さ100倍。いつもと変わらない笑顔いっぱい誕生会になりました。後日、主役の出張時を狙って内緒で



ケーキの替わりは生姜葛湯。「おめでとう!」の声で乾杯♪



生姜たっぷりのチーズケーキにみんなの想いを飾り付け…

お餅つき

先日、古民家「聴福庵」にて皆でお餅つきを行いました。木臼や杵や蒸籠など、使う道具も今まで修理をされながら大事に使われてきた年代物。私たちの祖先がどのような思いで年中行事に取り組んできたのか、一つひとつに手間暇をかけ心を込めて行ってみると…、あまりの大変さに体はヘトヘトになりましたが、自然と人が集まり協力が生まれ、各々の特性が発揮されることを実感し

一期一会庵

「神聖なお仕事」

先日、社内理念研修の一環として福岡県飯塚市にある築120年の古民家「聴福庵」にて畳づくりを畳職人さんと一緒に学びました。草の香りがする中で二つの畳を丁寧に手作業で創り上げていくプロセスを体験すると畳本来の魅力となぜ日本文化と畳が深くつながっているのかを学び直せました。それに今回は、熊本県八代市から本物にこだわりの草農家として有名な草野さんご夫妻にご縁をいただき貴重なお話をお聴きすることができました。草野さんの畳は工業品ではない、農産物です」という言葉からはじまり、「私は生物として生きているからこそ、いのちを扱っていることを大切にしている。草にもいのちがあるから畳の色も香りも変化してくる。喋らないから生きていないのではなく、植物も生きていていうことを忘れてはいけない」と語られます。また続いて「自然の恵みを受ける農業こそ自然から授かるものだからもつとも神聖なお仕事なのです。そして自然は素直ですから必ず自分がやったことがそのまま帰ってくる。だからこそ素直な心で自然と向き合っていないといけない。だから私は本物を作り続けるのです。」と、それに自分の理念として「自分が草に寄り添いながら生きてそれを喜びにすること、い草を使ってくる方々の喜びをつくり、そして我々には社会の喜びにしていけばいい。」と「共存共栄」の大切さを改めて教えて頂きました。最近ではこの草野さんご夫妻を慕って各地の草農家の若い人たちが集まって勉強会などもやっているそうです。草野さんはこれらのことをこたわりではなく当たり前のことといい、今も手間暇を一切惜しまずに楽しんで草を育てて畳を生産しておられます。どのような心で取り組むかにその人の生き方が出てきますから、この草野さんのように真心のままに楽しく豊かに今年も社業に取り組んでいきたいと思います。

編集後記

いつもご愛読頂きありがとうございます。今年も新たな気持ちで一つひとつの実践を味わい、ご縁を紡いでいけるような一年としていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



到底ひとりでは出来ない大変さが協力を生みます。



みかんをのせ鏡餅として床の間にお供えしました。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。